

令和6年度 第74次 印旛地区教育研究会 安全教育分科会（紙上提案資料）

1 研究主題

児童の安全意識を向上させるための取り組み

2 主題設定の理由

本校は印西市のニュータウン地域にあり、学区内では宅地が増加している。特に草深方面は畑だった土地が住宅地になり、歩道が狭い箇所や信号のない交差点が多くある。学校周辺は制限速度が60kmの道路や片側2車線の道路に囲まれていて、スピードを出す自動車が多い環境にある。現在本校の児童数は670人で、休み時間になるとたくさんの児童が校内を往来している。その為か、階段歩行や廊下歩行が徹底されず、怪我による保健室の来室者数が非常に多い。本校職員に安全教育における児童の課題についてアンケートをしたところ、横断歩道での止まり方や通学路の歩行の仕方が危険であること、避難訓練の真剣さが足りないことが挙げられた。日常生活の中での安全に対する意識が低いことがわかる。登下校や帰宅後の移動では、児童一人一人が自分の命は自分で守るという安全意識が大切になる。そこで、校内や郊外などの場所に関わらず、児童が安全に過ごしていくために、安全への意識を向上させる必要性を感じ、本主題を設定した。

3 研究の内容・方法

○生活委員会児童の呼び掛け運動

- ・生活委員会の児童が昇降口からグラウンドまでの通路はアスファルトになっているので、走らないように呼びかけを行っている。休み時間の楽しさから走ってしまう児童が非常に多く、転んだ場合、擦り傷の程度がひどくなってしまうので教職員も場面を見たときはその場で指導を行っている。
- ・全校で縦割り清掃を行っている為、前後の時間に2カ所の階段での全校移動がある。特にこの時間が混雑するので、階段での右側通行の呼びかけ、昇降口前で廊下歩行の呼びかけを毎回行っている。

○スポット避難訓練の実施

- ・通常の地震避難訓練、火災避難訓練、不審者対応避難訓練の他に毎月1回、スポット避難訓練を行っている。時間や場所、内容を変えることで様々な状況を想定してスポット避難訓練を行っている。

○学期始めの登校指導

- ・学期始めに職員と保護者で横断歩道での登校指導を学期始めに4日間行っている。
- ・登校指導では交差点の待ち方、通行の仕方など交通ルールやマナーを指導している。

○安全担当による下校指導

- ・下校の際に安全に関して特に気になる方面に絞り、安全担当が不定期で下校指導を行っている。
- ・近隣飲食店の駐車場に入ってしまったたり、片側2車線の道路を歩道がない場所で横断してしまったりする場合があります指導を行っている。職員打ち合わせで事例報告をして、全学級で指導を行っている。

○全校朝会や昼の校内放送での安全指導

- ・毎月の全校朝会でスライドでの画像や具体物を使いながら、安全について指導している。
- ・昼の校内放送で、歩道の渡り方として「止まる、見る、待つ」を伝えている。

○安全点検後の職員作業や業者依頼による修理・交換

- ・通学路には住宅街に接する車通りの多い道路でも、信号のない横断歩道が多く、設置要望を毎年出している。
- ・畑から住宅に宅地造成している地域があり、歩道が狭い通学路が一部方面である。樹木や雑草が歩道にはみ出したり、カーブミラーに覆い被さったりしている箇所は、依頼をして剪定してもらっている。
- ・床やロッカー、下駄箱等、経年劣化による損傷があり、業者依頼や職員作業により、修繕を行っている。

4 成果と課題

【成果】

- ・教職員や生活委員会の児童が呼びかけることにより、学校全体で廊下を安全に歩こうとする意識が高まった。児童が自主的に低学年に「右側通行だよ」と声をかける場面がみられるようになってきた。
- ・児童は登校よりも下校の時の方が不適切な行動をする傾向があり、その時間に見回りをすることで、その場で指導をすることができた。
- ・避難訓練やスポット避難訓練の回数を多くすることで、落ち着いて行動することができる児童が増えた。

【課題】

- ・住宅開発が継続して続いているので、児童が増える状況はしばらく続く見通しである。通学路を安全に登下校しているかは、継続して確認や指導をしていく必要がある。
- ・休み時間の大きな怪我（骨折、捻挫）が多く、遊具の安全な使い方について指導していく必要がある。
- ・避難訓練や校内放送で音声ほとんど聞こえない場所（廊下、体育館トイレ等）があり、緊急放送の際は職員が動いて伝える必要がある。
- ・校舎の老朽化が進んでいて、継続して要望を出したり、職員作業で破損箇所を修繕していく必要がある。